新 井 一 美 関 明 男 田 島 淳 造

## ④ 級別各科人員表昭和二十五

昭和二十五年四月一日現在、()は女子

選	特	総	未	未師		工		芸	科		彫 亥		1 科	油	日	各
	別学	7,0	復	範	築	漆工	鋳金	鍛金	彫金	図案	平櫛木彫	平櫛	石井教室	画	本画	科
科	生	計	員	科	科	部	部	部	部	部	不彫	-櫛塑造	教室	科	科	別
		一四四				五.	_		_		=	_		四		二年
		(25)		(5)					(1)	(2)			(2)	(10)	(5)	三
	=	五三		七	=	八	四四	五	七	=	五.	六	特一〇	特三八	七七	年
		(25)		(2)		(1)			(1)	(1)		(1)	(2)	(12)	(5)	四
		九		五.	四四	五五	四		七	0	五	四四	Ŧî.	選特二一九	九九	年
		=======================================		三	=		=	_	=	六			_		_	五年
		=				=										六年
		(50) =		(7)		(1)			(2)	(3)		(1)	(4)	(22)	(10)	小
	<u>=</u>	(50) ====================================	四四	五五	二八	=	=	六	七	三七	=	=	特一六	選特七	三七	計
_	=		四四	三五五	二八	三	=	六	一七	三七	三	=	一七	七四	三七	計

## ⑤ 小場恒吉の日本芸術院恩賜賞受賞

昭和二十五年以降、日本芸術院恩賜賞賞金が授与されることとなり、その第一回受賞者に、長く本校に勤務した後ち東京芸術大学教り、その第一回受賞者に、長く本校に勤務した後ち東京芸術大学教が、その文のもとになった草稿は本校(藤田亮策原案)が作成しるが、その文のもとになった草稿は本校(藤田亮策原案)が作成しるが、その文のもとになった草稿は本校(藤田亮策原案)が作成しるが、その文のもとになった草稿は本校(藤田亮策原案)が作成しるが、その第一回受賞者に、長く本校に勤務した後ち東京芸術大学教の場合で、ここに改めて原本を紹介しておく。

## 恩賜賞の受賞理由書

日本文様の研究

小

恒

吉

今猶七十有余才の老軀をささげ、寒暑をいとわず営々として所 年ので、この道は学者と同時に技術家でなければ能く実体を把握ので、この道は学者と同時に技術家でなければ能く実体を把握の場には明治三十四年頃より現在まで約五十年の長 年月に 三小場には明治三十四年頃より現在まで約五十年の長 年月に 三小場恒吉氏の研究は日本文様の時代的特徴と変遷を解明したも小場恒吉氏の研究は日本文様の時代的特徴と変遷を解明したも

測に基づく誠に尨大なものであります。 れた形態、若くは文様などを対照とするもので、総て調査は実れた形態、若くは文様などを対照とするもので、総て調査は現わの装飾から、絵画彫刻の絵文様又は諸般の古美術工芸品に現わるで、 
の研究範囲は、日本の他に中国及び朝鮮の古墳ないし古建築

期の目的達成に努めておられます。

その内容は、 研究の全貌であると思われます。 て描写したものであります。 に依って、 図及び構造図等で、 文字通り、 良く正確に絵文様の時代的な特徴と変遷の度を促え 名利に恬淡として没頭したればこそ始めて遂げ得た 絵文様の模写図、 何れも緻密な観察と描写力の秀れた技術 之は一に天分豊かな人間同氏が、 展開図、 実測図、 断 面図、 見取

料を提供するものといえましょう。 かも之がわが美術文化の面に極めて 有効且つ貴 重な基本的 資

幾千年に積るこの種古美術の全般的な解明は、 あります。 力を以て一生を傾け盡したこの難事業が、 高名誉として恩賜賞の請願に価するものと認め推薦する所以で 与貢献する功績は誠に甚大と云らべく、ここに酬ゆる表彰の最 べきものと思われるが、 未だこの企てなき今日に於て、 今やわが美術界に寄 蓋し国費に俟 同氏独

小場 恒吉氏日本文様研究の主たる模写目 L 録 其 0 他

日本の 部

題 名

○宇治鳳凰堂装飾文様

○東大寺三月堂諸仏像装飾文様

(唐様式)

治

Ξ

部

場氏

朝鮮楽浪郡遺跡調査関係の部

(自大正五年

葬

品

0 (漆器

藤原様式

明 明

治

六 四

東

京

芸

右

様式年代|模写研究期日 所 蔵 者

○薬師寺東塔装飾文様 ○興福寺三重塔北円堂装飾文様 ○大分県富貴寺装飾文様 ○室生寺仏光背装飾文様 白鳳様式 鎌倉様式 弘仁様式 藤原様式 明 明 明 明 治 治 治 治 四 四 四 JU 草稿 東 東京大学建築科 同 司 小場氏 芸 右

)醍醐寺五重塔装飾文様

○法隆寺百済観音光背装飾文様

○法隆寺五重塔本尊舎利容器図

○東大寺三月堂本尊宝冠の製図

○江西双塚、 ○江西平壌の二大古墳 ○鎮南浦大同 附近梅山里古 大塚壁画 立文様

○扶余郡百済王陵壁画文様

○満洲輯安県四神墳忍冬文様 ○満洲輯安県古墳壁画文様

○ 壁画研究 文化賞を授く○ 高句麗古墳 西日本新聞社○ 朝鮮平壌東明王陵画文様 文化賞を授く西日本新聞社より

昭 昭 和 和 +

鏡鑑類多し) るものは豪華版にして昭和十年の発刊なり 工芸品を調査し形態文様を研究して精密なる図面を作成 主として古墳の発掘調査に従事し其構造を実測し副 し其報告書を作ること数冊、 中に

も王光墓と題

○其他各種文様の拓本草稿等多数 ○法隆寺玉虫厨子装飾文様 )薬師寺四天王装飾文様 ) 栄山寺八角堂装飾文様

推古様式 藤原様式 天平時代 明 明 明 治 治 治 四 四 四  $\equiv$ 几 四 玉 東 東京大学建 7 博 物

築科

館

白鳳様式 足利様式 推古様式 昭 明 明 治 治 四 四 四 四 文 小 東 東 京大学建 京大学建 京 場 芸

築

現 在 和 製 作 中 四 部

> 省 氏

朝鮮満洲の 部

(壁画文様 □ 文墳 様壁 六高朝勾 六朝様式 百 同 様麗式国 右 右 右 昭 昭 大 大 大 大 和 Œ 和 正 正 Œ + + 九 Ξ  $\equiv$ ++ 元 三小 三小 年 年 年 年 六五 一平 京 京東 東 部城 同 城 城大 大 部 博 博 小博 場 建 物 場物 物 築 右 氏館 氏 氏 大 館 館 科

○楽浪漆器文様図集 支那漢代 小東京芸大

四、古今文様の部

○朝鮮古今文様集

小 場 氏

至自 近 代 古

郎氏邸天井壁画を始め官展出品作数点、吾楽出品作等) 古今文様の研究を活用したる応用製作品の主なるもの

(益田太

Ħ, 仏蹟調査の部

○南山の仏蹟調査 ○朝鮮慶州仏蹟調査

昭和十五

以上は主なるものにして細大共単身を以て独力描写研究された 面に直接有効な利用価値を齎らすものであります。 を実証する唯一の資料たるは勿論のこと之が利用の面に於ては もので我国文様の変遷を明らかにし且つ大陸系統満韓との連絡 こ、その効果は慨ね文献上の単なる資料と異なり実際的な技術般美術並に工芸の上に東洋美術の精華発揚に貢献するもの